



TITLE:

實質上ヨリ觀察セル植民地ノ分類

AUTHOR(S):

山本, 美越乃

CITATION:

山本, 美越乃. 實質上ヨリ觀察セル植民地ノ分類. 經濟論叢 1918, 6(3): 330-340

ISSUE DATE:

1918-03-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127350>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號三第 卷六第

行發日一月三年七正大

論說

營業稅ノ課稅標準(二)……………法學博士 神戸 正雄

經濟的行爲ト道德的行爲トノ關係(四)……………法學博士 田島 錦治

實質上ヨリ觀察セル植民地ノ分類……………法學士 山本美越乃

大阪ニ於ケル舊時ノ鹽問屋……………法學士 本庄榮治郎

露國ニ於ケルまゝノくす說ノ發達(二)……………文學士 米田庄太郎

社會學ト社會科學(三)……………文學士 高田 保馬

我國ニ於ケル營利心ノ起源及發達(二)……………文學士 銅 直 勇

時事問題

取引所外ニ於ケル定期取引(二)……………法學博士 戸田 海市

勸業銀行ト農工銀行トノ問題(二)……………法學士 河田 嗣郎

雜錄

獨逸經濟學界近況(三)……………在 米 米田庄太郎

米國ノ戰時租稅法(二)……………法學士 阿部 賢一

米國ノ戰時海運政策(二)……………文學士 岸本熊太郎

社會批評家ヲシカあらいる(三)……………文學士 石田 憲次

暴利取締令ノ適用ニ就テ……………法學博士 神戸 正雄

實質上ヨリ觀察セル植民地ノ分類

山 本 美 越 乃

本誌第四卷第三號ニ於テ予ハ植民地ノ分類ニ關シテ『形式上ニ於ケル分類』及『實質上ニ於ケル分類』ノ二大別ヲ設ケ、先ヅ『形式上ニ於ケル分類』ニ就キテ畧見ヲ述ベタリ、而シテ茲ニ論セントスル所ハ其ノ第二ノ分類ニ屬ス、故ニ本論ハ茲ニ述ベタル『形式上ニ於ケル分類』ト相俟テ初メテ完全ナル『植民地ノ分類』ナル一篇ヲ構成スベキモナリ。

實質上ニ於ケル植民地ノ分類ハ某國家ガ其ノ本來ノ國土以外ニ於テ新タニ領有セル土地ニ對スル國民ノ植民の活動ノ實質若クハ特徵ヲ標準トシテ之ヲ區別スルモノナルガ故ニ形式上ニ於ケル分類ノ如クニ單純ナラズ、凡ソ新領有地ニ對スル國民ノ植民の活動ハ是等ノ地方ニ於ケル自然的ノ事情換言セバ面積・位置・氣候・地味及富源ノ性質等ニ依リテ左右セラルルガ故ニ斯カル點ヨリ論ズル時ハ植民地ノ實質ハ既ニ先天的ニ定マリ、從テ之ガ分類ノ如キモ亦頗ル容易ナルニ似タリト雖ドモ、前世紀ノ初メ獨逸ノ歴史學者ヘーレンガ其ノ名著『歐洲各國ノ國家組織及其ノ植民地ノ歴史』(A. H. L. Heeren, Handbuch der Geschichte des europäischen Staatensystems und seiner Kolonien, Göttingen, 1830.)³ニ於テ實質上ヨリ觀察セル植民地ノ分類ヲ示スニ至ル迄ハ、英・佛等ノ學者間ニ在リテモ植民地ノ分類ニ關スル意見ハ區々ニ分レシヲ以テ觀ルモ、此ノ問題ノ此ノ如ク單純ナルモノニ非ズシテ少クトモ植民學者ノ攻究ヲ值ス可キ一問題タルヤ論ナシ。

(1) 此ノ書ハ“A Manual of the History of the Political System of Europe and its Colonies”ナル名稱ノ下ニ1834年 Oxfordニ於テ其ノ第五版ノ英譯ヲ出版セリ。

(註) ちんまーまん氏ノ説ニ從ハバ佛國ノ學者はーばん(Vauban)ハ既ニ第十七世紀ノ終リ即チ一六九九年ニ Oysivets 中ニ植民地ヲ分類シテ、(一) Colonies forcées (亡命者又ハ追放者ニ依リテ止ムナク建設セラレタル植民地)、(二) Colonies de habitation (破船者又ハ冒險者ニ依リテ偶然建設セラレタル植民地)、(三) Colonies de raison (近世ノ正當ナル方法ニ依リテ建設セラレタル植民地)ノ三種トナシ、又ぐりべる(Grivel)ハ第十八世紀ノ後半即チ一七八四年ニ公ニセル Colonie ナル一文中心ニ植民地ヲ分チテ、(一) Kolonien der heroischen und Fabelzeiten, über die es an sicherer Kunde fehlt (有史以前ノ神代ノ植民地)、(二) Kolonien der antiken Welt. (上古ノ植民地)、(三) Die modernen Kolonien seit der Entdeckung des Seewegs nach Indien. (印度航路ノ發見以後ニ於ケル近世ノ植民地)トシ、セー(J. B. Say)ハ一八〇三年ニ公刊セル經濟學論中ニ植民地ヲ分類シテ、(一) Kolonien nach dem antiken System. (古代的植民地)、(二) Kolonien nach dem modernen System. (近代的植民地)トナシタリト雖ドモ、斯カル分類ハ毫モ植民地ノ實質ヲ表示スルニ足ラズ、殊ニぐりべる及セーノ分類ノ如キハ植民史ノ區分法トシテハ參考ノ價值ナキニ非ザルモ、實質上ニ於ケル植民地ノ分類問題ニハ何等ノ交渉ヲ有セズト言フモ不可ナシ。又英國ノ學者中ニハ其ノ獲得方法ヲ異ニスルニ從ヒ植民地ヲ分類シテ、(一) Colony by conquest (征服植民地)、(二) Colony by cession under treaty. (割讓植民地)、(三) Colony by occupancy. (占領植民地)トナシトモ、(B. C. Clark, A Summary of Colonial Law, London, 1834.)ハ如キアリト雖ドモ、是亦植民地ノ實質上ノ分類トシテハ價值ナ有スルモノニ非ズ、何トナレバ假令植民地ノ獲得方法ハ異ナルモ其ノ實質ハ大差ナキモノアリ、又其ノ獲得方法ハ同一ナルモ實質ノ全ク相異ナレルモノアルヲ以テ、斯カル區別ニ據リテ植民地ノ實質上ノ特徵ヲ知ルコトハ殆ンド不可能ナルヲ以テナリ。

植民國トシテハ遙ニ先進國タル地位ニ立テル英・佛等ノ學者間ニ植民地ノ實質上ノ分類ニ關シテ未ダ具體的ノ意見ヲ發表スルニ至ラザリシ時ニ當リ、獨逸ニ於テハ前述ノ如クニヘーレン出デテ初メテ植民地ヲ實質上ヨリ觀察シテ、(一) Ackerbaukolonien. (農業植民地)、(二) Pflanzungskolonien.

(1) Zimmermann, A. Kolonialpolitik, S. 2 ff.

(2) Zimmermann, a. a. O. S. 4.

(栽培植民地)^(註) (三) Bergbaukolonien. (鑛業植民地) (四) Handelskolonien. (商業植民地) ノ四種ニ分チ、⁽¹⁾以テ其ノ實質的分類ノ標準ヲ示シタル功ハ之ヲ沒ス可カラザルモノアリ、ヘーレンノ此ノ分類ハ從來ノ學者ノ分類ニ比較スル時ハ、國民ノ植民の活動ノ特徵ヲ表示スル點ニ於テ遙ニ優レルモノアリ、然ルニろつしみるハ此ノ分類ニ多少ノ變更ヲ加ヘ、鑛業植民地ノ如キハ永續的ノ性質ヲ有スルモノニ非ズトノ理由ノ下ニ之ヲ除キ、嘗テでいゝでる (G. Dedel) ガ植民地統治論 (Disputatio juridico-politica de coloniis, 1826) 中ニ採用シタル分類ヲ折衷シテ、⁽²⁾「Eroberungskolonien. (掠奪植民地)」、⁽³⁾「Handelskolonien. (商業植民地)」、⁽³⁾「Ackerbaukolonien. (農業植民地)」、⁽³⁾「Pflanzungskolonien. (栽培植民地)」ノ區別ヲ設ケタリト雖ドモ、吾人ヲ以テ觀レバろつしみるノ所謂掠奪植民地ナルモノハ移住者ガ植民地ノ富源ヲ開發シテ利益ヲ得ルヨリハ、寧ロ住民ニ對シテ政治的又ハ武力的ノ掠奪ヲ行フコトニ依リテ利益ヲ得ントスル植民地ヲ稱スルガ故ニ、若シヘーレンノ所謂鑛業植民地ニシテ永續的ノ性質ヲ有スルモノニ非ズトシテ之ヲ排斥シ得ベクンバ、掠奪植民地ノ如キハ更ニ一層永續的ノ性質ヲ有スルモノニ非ズトシテ之ヲ植民地ノ實質上ノ分類中ニ加フベキニ非ズト信ズ、近世ノ植民國中掠奪植民ノ特質ヲ備ヘタルモノハ西班牙ナリト雖ドモ、西班牙ノ植民地ハ一トシテ母國ノ掠奪ニ永久ニ堪エ得タルモノナキニ反シ、佛國ノにゆゑ一かれどにあゝ英國ノ濠洲及南亞ノ一部等ノ如キハ現今ト雖ドモ尙ホ鑛業植民地トシテ其ノ價值ヲ持續シツツアルコトヲ思フ時ハ、ろつしみるノ分類ハヘーレンニ比シテ却テ劣レルモノト評セザルヲ得ズ。

此ノ如クヘーレン及ろつしみるハ實質上ヨリ觀察シテ植民地ヲ四種ニ大別セントスルニ反シ、

(註) 栽培植民地トハ熱帶特有ノ有用植物ヲ栽培培養シテ之ガ產物ヲ收穫スル植民地ヲ稱ス。

(1) Zimmermann, a. a. O. S. 3. Heeren, A. Manual of the History of the Political System of Europe and its Colonies, vol. I, p. 36.

(2) Zimmermann, a. a. O. S. 4.

(3) W. Roscher u. R. Jannasch, Kolonien, Kolonialpolitik und Auswanderung, S. 2 ff.

佛國ノ植民學者るるあ、ばーりゅーハ一切ノ植民地ヲ、(一) Colonies ou comptoirs de commerce. (商業植民地又ハ商業根據地)。(二) Colonies agricoles ordinaires ou de peuplement. (農業植民地又ハ移住植民地)。(三) Colonies de plantations ou d'exploitation. (栽培植民地又ハ開發植民地)ノ三種ニ區別セントシ、英國ノるじやーとん氏モ亦植民地ヲ、(一) Factories (商業根據地)。(二) Plantations, primarily settlements of capital. (放資植民地)。(三) Colonies proper, primarily settlements of men. (移住植民地)ノ三分チ、又嘗テハせーむす、みるノ如キ、現今ニ於テハらんち氏ノ如キハ植民地ガ果シテ母國人ノ移住ニ適スルヤ、或ハ人ノ移住ニ適セザルモ尙ホ富源ヲ開發シテ之ヲ利用シ得ベキヤ否ヤニ依リテ、(一) Settlement colonies. (移住植民地)。(二) Exploitation colonies. (開發植民地)ノ二種ニ分類セントシ、ひゅー、しゅー、でんノ如キモ略ボ同一ノ見解ヲ探レリ、更ニ獨逸植民事業ノ父ト呼バレシふありモ植民ヲ二種ニ大別シテ農業植民及商業植民トナスモ、之ト共ニ彼ハ又別ニ Straf-Colonien oder Verbrecher-Colonien. (刑罰植民若クハ罪囚植民)ナルモノヲ認ムルガ故ニ、此ノ點ヨリ論ズル時ハ植民ニ三種ノ別アリト稱スルモ不可ナシ、然レドモ母國ノ罪囚ヲ強制的ニ移住セシムル所謂刑罰植民ナルモノハ、毫モ國民ノ植民の活動ノ特徵ヲ表示スルモノニ非ズシテ單ニ移住者ノ種類ヲ示スニ過ギザルガ故ニ、之ヲ以テ植民地ノ實質の分類ノ一標準トナスヲ得ズ、蓋シ刑罰植民地ト雖ドモ其ノ實質ニ於テハ他ノ植民地ト異ナルコトナク、移住地ノ狀況ニ應ジテ罪囚ヲシテ或ハ農業ニ或ハ採收業ニ從事セシムルモノナルガ故ニ、其ノ實質上ヨリ論ズル時ハ後ニ述ブベキ原始生産植民地ニ屬スベキモノタルヲ以テナリ。

- (1) Leroy-Beaulieu, Paul. De la Colonisation chez les Peuples modernes, 6^e édition (1908), t. II, p. 540.
Stengel, C. F. モ亦同一分類法ヲ採レリ (Die Deutschen Schutzgebiete, S. 3.)
- (2) Egerton, H. E. The Origin and Growth of the English Colonies, p. 3.
- (3) Zimmermann, a. a. O. S. 3.
- (4) Reinsch, P. S. Colonial Government, p. 17.
- (5) Hübbe-Schleiden, Colonisations Politik und Colonisations Technik, S. 1.
- (6) Fabri, F. Bedarf Deutschland der Colonien?, S. 47.

因ニ、罪人ヲ植民地ニ送りテ此所ニ移住セシムルコトハ一方ヨリ觀察スル時、植民地ニ必要ナル勞力ヲ供給スルト共ニ、又母國ノ罪囚羣ヲ減少スルコトヲ得ルガ故ニ相互ニ利スル所歟カラザルガ如シト雖ドモ、過去ニ於ケル各國ノ實驗ハ寧ロ其ノ弊害ノ大ナルコトヲ示シツツアリ、蓋シ植民地ニ於テ罪人ヲ自由ニ放置セバ良民ノ安寧ヲ害シ、之ヲ拘束セントセバ獄舎其ノ他ノ設備ノ爲メニ植民地ノ負擔ヲ増加スベク、又刑期ノ満了後ト雖ドモ彼等ノ多クハ游惰浮浪ノ生活ヲ送り公安ヲ害スルノ危險大ナルヲ以テ、一度罪人ヲ植民地ニ送ル時ハ良民ノ移住ハ之ガ爲メニ妨ケラレ、植民地ノ健全ナル發達ヲ遂ゲシムルコト能ハザルヲ以テナリ、*「It is a shameful and unblessed thing to take the scum of people, and wicked condemned men, to be the people with whom you plant; and not only so, but it spoileth the plantation; for they will ever live like rogues, and not fall to work, but be lazy, and do mischief, and spend vicinals, and be quickly weary, and then certify over to their country to the discredit of the plantation.」*ト云ヘルハ此ノ意ヲ言明セルニ他ナラズ、故ニ近世ノ初メニ於テハ罪人ヲ植民地ニ送ルノ風各國ニ行ハレタリト雖ドモ近時ハ次第ニ其ノ跡ヲ斷ツニ至レリ。罪囚植民地ノ著例トシテハ西班牙ノ西印度・葡萄牙ノぶらジル・英國ノ澤洲・佛國ノギアナ及び³一カレドニア・露國ノ西比利亞等ヲ舉グルコトヲ得ベシト雖ドモ、前二者ハ既ニ是等ノ植民地ニ對スル領土權ヲ失ヒ、英・佛・露等ノ諸國モ漸次其ノ弊害ヲ認メ、殊ニ英國ハ一八六七午西部澤洲ニ罪人ヲ輸送シタルヲ最後トシテ率先斯カル制度ヲ廢止セシヨリ以來各國モ此ノ方針ニ倣ハントスルニ至レリ。

然ルニ以上ノ分類ト全ク異ナレル見地ヨリ植民地ヲ區別セントシタル者ハしるふれーニシテ、氏ハ植民トハ人ノ移住ニ依リテ高等ナル他國ノ文明ヲ輸入シテ劣等ナル人民ヲ啓發スルヲ謂フトノ見解ニ基キ、母國ト植民地トノ文化ノ比較の進歩ノ程度ヲ標準トシテ區別ヲ設ケント試ミタリ、しるふれーノ說ニ據レバ文化ノ程度ノ五階級即チ部落の状態ヨリ封建の状態ヲ經テ都市の状態ニ移リ更ニ地方的状態ヲ經テ最後ニ近世ノ國家の状態ニ達スル順序ニ從ヒ植民モ亦種々ニ分類スル

(1) Bacon, Francis. The Essays or Counsels (in Everyman's Library), p. 104.
"Of plantations."

コトヲ得ベシトナシ、例ヘバ第五級ノ近世ノ國家的狀態ニ達シタル人民ガ無人ノ地方ニ植民シタル場合ニハ之ヲ第五級ノ植民ト云ヒ、又部落的狀態ヲ脱セザル地方ニ植民シタル場合ニハ之ヲ第四級ノ植民、封建的ノ狀態ヲ脱セザル地方ニ植民シタル場合ニハ之ヲ第二級ノ植民ト云フガ如ク、母國及植民地ノ文化ノ程度ニ應ジテ其ノ植民ニ區別ヲ設ケントスルモノナリ、然レドモ此ノ說ニ據ルモ植民地ノ實質ハ尙ホ之ヲ明カニスルコト能ハザルガ故ニ未ダ實質上ノ分類ノ標準トナスニ足ラズ。

若シ夫レ植民地ヲ單ニ經濟上及社會上ヨリ觀察シテ之ヲ分類セバ以上ノ諸說亦一理ナキニ非ズト雖ドモ、之ヲ近世各國ノ植民の活動ノ實際ニ徴スルニ經濟上及社會上ノ理由以外ニ更ニ政治上若クバ軍事上ノ理由ヨリ植民地ヲ領有スルモノモ決シテ少シトセズ、而シテ斯カル場合ニハ母國人ノ移住ノ能否又ハ開發スベキ富源ノ有無等ノ如キハ最初ヨリ問題トナラズシテ、唯艦隊ノ根據地・貯炭地若クバ海底電線ノ伸張地等ヲ得レバ足レリトナスガ故ニ、廣ク植民地ノ實質上ノ分類ヲ成スニ當リテハ是等ノ理由ニ出ヅルモノヲモ其ノ内ニ包含セシメザル可カラズ、果シテ然リトセバ以上ノ諸說ノ如キハ未ダ以テ完全ナリト稱スルヲ得ザルナリ。

實質上ヨリ觀察セル植民地ノ分類ニ關シテハ以上要述セルガ如ク學者ノ見解區々ニ分ルト雖ドモ、植民地領有ノ目的及是等ノ地方ニ對スル國民ノ植民の活動ノ特徵ヲ標準トシテ之ヲ分類スルトキハ、吾人ハ先ヅ植民地ヲ (甲) 原始生産植民地、(乙) 根據植民地、一ニ分チ、前者ハ更ニ之ヲ、(イ) 移住植民地(又ハ狹義ノ農業植民地)、(ロ) 放資植民地(又ハ採收植民地)ニ、後者ハ之

(1) Schäffle, A. E. F. Kolonialpolitische Studien, in d. Tübinger Zeitschrift für die gesamte Staatswissenschaft, Bd. 43, S. 140ff.

ヲ、
 (イ) 商業根據地(又ハ商業植民地)、
 (ロ) 軍事根據地(又ハ軍事植民地)、
 ニ區分スルヲ適當ト信
 ズ、而シテ此ノ分類ハ獨逸ニ於テハきよぶな一氏ニ依リテ提唱セラレ氏ハ一切ノ植民地ヲ、
 Gebiete der Urvorkonktion. (B) Kolonialen Stützpunkte. 大別シ、前者ハ (1) Siedelungskolonien. (2) (A)
 Pflanzungskolonien. 後者ハ Handelsvermittlungskolonien oder (in vielen Fällen unzu) politisch-
 militärische Stützpunkte. ニ區分スルコトヲ得ベシト言ヘルハ、從來ノ諸説ト異ナリ一ノ卓見ト稱
 セザルヲ得ズ、吾人ノ分類モ氏ノ説ニ負フ所大ナリト雖ドモ亦多少其ノ見ヲ異ニスルモノアルヲ
 以テ、以下之ヲ細説スベシ。

(甲) 原始生産植民地(註)

原始生産植民地トハ母國ノ勞力又ハ資本ヲ移入スルコトニ依リテ該地方ニ於ケル富源ノ開發ヲ
 主タル目的トナス植民地ヲ謂フ、此ノ種ノ植民地ハ自ラ經濟的ノ發展ヲ成シ得ベキ自然ノ恩惠ヲ
 有スルモ、勞力又ハ資本ノ缺乏ノ爲メニ富源ノ開發意ノ如クナラザルヨリ母國ノ勞資ヲ移入スル
 コトニ依リテ其ノ開發ヲ完カラシメントスルモノナリ、然レドモ或地方ハ母國人ノ永久的ノ移住
 ニ適スルモ他ノ地方ハ氣候・風土其ノ他諸種ノ事情ヨリ人ノ移住ニ適セザルモ資本ヲ放下スルコ
 トニ依リテ其ノ富源ヲ開發シ得ルモノアリ、前者ハ之ヲ移住植民地(又ハ狹義ノ農業植民地)ト謂
 ヒ、後者ハ之ヲ放資植民地(又ハ採收植民地)ト謂フ。

(イ) 移住植民地(又ハ狹義ノ農業植民地)

移住植民地トハ氣候・風土其ノ他諸種ノ自然的事情

(1) Köbner, Otto. Einführung in die Kolonialpolitik, S.22.

我國ニ於テハ堀光龜氏モ亦きよぶな一ノ分類ヲ採用スルモ (經濟大辭書第四卷『植民』ノ項參照) 永井柳太郎氏ハ寧ロらんちノ分類ニ左祖スルカ如シ (同氏植民原論一四〇頁參照)、唯我國ニ於ケル斯學ノ著宿新渡戸博士ノ高説ヲ聞知セザルヲ憾ミトス。

ガ母國人ノ移住ヲ妨グルコトナクシテ其ノ永久的ノ居住ニ適スベキ植民地ヲ謂フ、而シテ此ノ種ノ植民地ニ於テハ移住者ハ主トシテ農耕ノ業ニ從事シ自己及其子孫ヲ通ジテ該地方ニ土着定住スルヲ特色トス、例ヘバ加奈太・濠洲・亞細亞及南洋ニ於ケル氣候ノ良好ナル地方・南北亞弗利加ノ健康地帯ノ如キハ之ニ屬シ、我ガ國ノ植民地ノ如キモ亦其ノ實質上ヨリ論ズル時ハ此ノ種類ニ屬スベキモノタリ。

(ロ)放資植民地(又ハ採收植民地) 放資植民地トハ氣候・風土其ノ他諸種ノ自然的事情ガ母國人ノ移住ニ適セザルカ、或ハ假令移住スルモ其ノ繁殖ニ適セザルヨリ、主トシテ資本ヲ放下シテ母國ニ於テ產セザル特殊ノ產物ヲ得シコトヲ目的トスル植民地ヲ謂フ、此ノ種ノ植民地ハ多クハ熱帶地方ニ存シ母國人ハ土民又ハ該地方ノ勞働ニ堪エ得ベキ有色人種ノ勞力ヲ使用シテ富源ノ開發ニ任ズルヲ特色トス、例ヘバ印度・中部亞弗利加・西印度及南洋諸島・中米及南米ノ一部ノ如キハ之ニ屬ス、放資植民地ニ於ケル產物ハ或ハ護謨・椰子・甘蔗・珈琲・加々阿・香料等ノ如キ植物性ノ物タルコトアリ、或ハ象牙・羽毛等ノ如キ動物性ノ物タルコトアリ、或ハ金剛石・金・銀・錫等ノ如キ礦物性ノ物タルコトアリト雖ドモ、何レモ母國ニ於テ產セザルカ或ハ稀ニ產スルニ過ギザル有用產物タルヨリ特ニ之ヲ『植民地貨物』"Kolonialwaren"ト稱シテ重要視セラル。

移住植民地及放資植民地ノ區別ハ要スルニ上述ノ如シト雖ドモ、是等兩者ノ特質ハ必ズシモ永久不變的ノモノニ非ズ、何トナレバ植民地の活動ノ當初ニ於テハ到底文明國民ノ移住ニ適セズト認メラレタル地方モ、人智ノ進歩ト共ニ人力ニ依リテ自然力ノ障礙ヲ除去シ得ルノ途開カルルニ及

ビ次第二文明國民ノ移住ニ適スルニ至ル時ハ、嘗テ單純ナル放資植民地ヲ以テ目セラレタルモノモ歲月ノ經過ト共ニ移住植民地トナルコトナシトセザルヲ以テナリ、我ガ臺灣ノ如キハ實ニ之ガ好例タリ。然レドモ斯カル場合ヲ除ク外ハ兩者ノ間ニハ明白ナル區別存シ、其ノ結果當ニ植民地住民ノ社會上及經濟上ノ地位ニ重大ナル差異ヲ生ゼシムルノミナラズ、更ニ政治上ニ於テ、移住植民地ハ風俗・習慣・文化ノ程度等ニ大差ナキ母國ノ移住者ヲ以テ一社會ヲ組織スルヲ得ルガ故ニ自ラ共和的若クバ民主的ノ性質ヲ帶ブルニ至ルニ反シ、放資植民地ニ於テハ資本家タル母國人ト勞動者タル土民又ハ有色人種トノ間ニハ社會上及經濟上最初ヨリ著シキ地位ノ懸隔存シ、從テ政治上ニ於テモ自ラ專制主義ノ行ハルル傾向アリトハキム。一氏ノ主張スル所ナルモ吾人ヲ以テ觀レバ此ノ如キ斷案ハ一般的ニ之ヲ下シ得ベキモノニ非ズシテ、母國人ノ政治的思想及其ノ對國家觀念ノ如何ニ由リテ大ニ影響セラルベキモノタルコトニ注意セザル可カラズ、彼ノ獨立自由ノ念ニ富メルあんぐろさくそん人等ノ移住植民地ニ於テハキム。一氏ノ言ハ事實上ニ立證セラレザルニ非ズト雖ドモ、國民ノ獨立自由ノ念ノ旺盛ナラザル國ノ植民地ニ於テハ假令母國人ノ移住ハ如何ニ増加スルモ恐クバ共和的ノ性質ヲ帶ブルニ至ルガ如キコトナカルベシ、是レ蓋シ國民ノ政治的思想及其ノ對國家觀念ノ差異ニ基ク自然ノ結果タリ、反之、放資植民地ト雖ドモ常ニ專制主義ノ行ハルルコトヲ保ス可カラズシテ、却テ土民ノ自覺心ノ如何ニ依リテハ民主的ノ傾向ヲ生ズルニ至ルコトアルベク現ニ印度ノ革命運動ノ如キ比律賓ノ獨立運動ノ如キハ之ガ適例ト稱スルヲ得ベシ、故ニ此ノ點ニ關シテハキム。一氏ノ說ハ未ダ遽カニ贊スル能ハザルモノアリ。

(1) Köbner, a. a. O. S. 19.

(註) 原始生産植民地トハ獨語 “Gebiete der Urproduktion”ニ相當シ、英・佛等ノ植民學者ノ移住植民地及栽培植民地ノ二者ヲ總括セルモノナリ、英・佛等ニ於テハ之ニ相當セル術語ノ使用ヲ聞カズ。

(乙) 根據植民地(註)

根據植民地トハ植民地自體ガ單獨ノ經濟的ノ發展ヲ成シ得ベキ自然ノ恩惠ヲ具備スルヤ否ヤハ敢テ問フ所ニ非ズシテ、唯其ノ地域ガ通商交通ノ根據地又ハ仲繼地タルベキ利便ヲ有スルカ、若クハ政治上及軍事上ノ根據地又ハ策源地トシテ母國ニトリテ重大ナル關係ヲ有スル植民地ヲ謂フ、故ニ根據植民地ハ必ズシモ廣大ナル地積ヲ必要トセズ、唯通商及軍事上ノ目的ニ應ジ得ベキ諸般ノ施設ヲ爲スコトヲ得バ足ル、而シテ此ノ種ノ植民地ハ更ニ之ヲ分チテ商業根據地(又ハ商業植民地)及軍事根據地(又ハ軍事植民地)ノ二トナスコトヲ得ベシ。

(イ) 商業根據地(又ハ商業植民地) 移住植民地及放資植民地ハ共ニ原始的生産ノ目的ヲ達セシムル點ニ於テハ一ナリト雖ドモ、商業根據地ハ斯カル目的ニ應ズルモノニ非ズシテ、主トシテ植民地附近及其ノ奥地ノ生産物ト母國又ハ他國ノ生産物トノ通商交易ヲ媒介スル任務ヲ有セル植民地ヲ謂フ、例ヘバ香港・新嘉坡・ちゅうーにす及印度支那ノ如キハ之ニ屬ス、商業根據地ハ植民史上ニ於テハ極メテ重要ナル地位ヲ占メ古代ノ植民國ガ地中海沿岸ニ於テ領有シタル植民地ノ如キ、近世ノ植民國ガ東洋及印度洋岸ニ於テ設定シタル植民地ノ如キハ多クハ之ニ屬ス。又商業根據地ニシテ同時ニ政治上及軍事上ノ策源地ヲ兼ヌル場合ニハ母國ノ勢力ノ扶植上極メテ有利ナルモノ

アルコトハ獨逸ノ膠洲灣ニ於ケル實例之ヲ證シテ餘リアリ。

近時各國ノ植民の活動ハ新タニ廣大ナル領土ヲ獲得センコトニ熱中スルヨリハ、寧ロ沿岸樞要ノ地點ニ商業上若クバ軍事上ノ根據地ヲ得ンコトニ着眼スルニ至レルハ頗ル注意スベキ事項ナリトス、是レ蓋シ從來發見セラレタル土地ハ既ニ列強間ニ分割シ盡クサレタルヲ以テ、若シ將來廣大ナル植民地ヲ得ント欲セバ戰爭又ハ割讓條約ニ據ルニ非ズンバ之ヲ獲ルノ途ナキト、又當初ヨリ龐大ナル土地ヲ領有シテ之ガ統治ニ苦マンヨリハ、寧ロ最初ハ母國ノ勢力ヲ一小地域ニ集中シテ其ノ勢力ノ扶植セラルルニ從ヒ漸次奧地ニ領域ヲ擴張スルノ却テ有效ナルモノアルヲ覺レルヨリ、從來ノ如キ散漫ナル植民地擴張主義ヲ棄テ、堅實ナル勢力扶植主義ニ依ラントセルニ原因スルモノタリ。

(口) 軍事根據地(又ハ軍事植民地) 是レ主トシテ政治上及軍事上ノ目的ヲ以テ領有セル植民地

ヲ稱ス、斯カル場合ニハ植民地ハ艦隊ノ根據地・貯炭地若クバ海底電線ノ伸張地トシテ使用セラルルヲ通常トス、例ヘバジぶらるたる・まるた・せんご、へれな・あすせんしゅん・あでん・ぐあむ等ノ如キハ之ニ屬ス、但シ此ノ種ノ植民地ト雖ドモ陸軍ノ根據地ニ在リテハ往々廣大ナル地域ヲ占領シ、平時ハ屯田制度ニ依リテ之ヲ維持スルモ一朝有事ノ日ニハ直チニ軍隊ノ出動地トナルモノモ亦ナキニ非ズ、例ヘバ中部亞細亞ニ於ケル露國ノ植民地ノ如キハ之ニ屬ス。

(註) 根據植民地トハ獨ノ“Kolonialen Stützpunkte” 英ノ“Outposts for military, naval, and commercial purposes,” 佛ノ“Points d'appui” ニ相當スル植民地ヲ稱ス。